

# 今熊野 稲荷

東山・今熊野にある泉涌寺は「御寺(みでら)」と呼ばれ、四条天皇以降、歴代の天皇・皇后・皇族の御葬儀がここで行われ、皇室の御菩提寺とされました。また、平安時代に関白藤原忠通が入寺して隆盛を極めた大寺・法性寺の跡地に鎌倉時代初めに東福寺が建立され、広大な寺域に現在も大伽藍が建ち並んでいます。さらに、東山の南峰になる稲荷山には、平安時代以前からの歴史をもつ稲荷大社があります。それぞれの見所を歩き、全国に約4万もある稲荷社の総本山のお山めぐりも紹介して、この地の歴史・文化を訪ねます。

## 東福寺

鎌倉時代に摂政九条道家(みちい)が九条家の菩提寺として創建しました。奈良の東大寺と興福寺から一字づつ取り東福寺とされました。大伽藍を有する寺となり「東福寺の伽藍つら」と称されています。現存する三門は日本最古(禅宗寺院では最大)で国宝に指定されています。



三門(国宝)

### 三名橋

伽藍の北にある洗玉淵(せんぎょくかん)と呼ばれる深谷には、鮮やかな紅葉の見所に架かる臥雲橋(がうんきょう)、通天橋、偃月橋(えんげつきょう)の三名橋があります。東福寺の開山である僧円爾弁円(えんにべんねん)が宋より持ち帰ったトウカエデは葉が三つに分かれ、秋にはこがね色に染まります。現在、約2000本のモミジ・カエデが深谷に茂っています。



通天橋と紅葉

### 方丈庭園

昭和期の作家、重森三玲(しげもりみれい)による庭園です。「八相の庭」と呼ばれる、釈迦の八相成道に因む珍しい意匠表現の枯山水の庭で、方丈前庭ほか、市松を見せる西庭と北庭、北斗七星を表す東庭にその意匠を見ることが出来ます。



北斗七星を表した東庭

### 東福寺のイブキ

東福寺の開山(13世紀)とゆかりの深い木で、江戸時代には既に古樹として知られ、『都名所図会』には円爾弁円が宋から携えてきた「唐木」として描かれています。同じ古木の徳大寺のイブキと同じように本堂の前に植えられています。



イブキ(市登録天然記念物)

## 東福寺の塔頭

### 1 退耕庵

僧安国寺惠遠(えいけい)と石田三成らが関ヶ原の戦いの謀議を行ったとされる茶室「作夢軒」があります。また、小野小町ゆかりの「玉章(たまさ)地蔵」が安置されています。



退耕庵の門

### 2 同聚院

同聚院の五大堂は藤原道長が建立した法性寺五大堂の遺構で、重要文化財である本尊不動明王坐像は仏師定朝の父康尚(こうしょう)の作といわれています。



不動明王坐像

### 3 芬陀院

雪舟の作庭といわれる枯山水庭園があり、別名雪舟寺と呼ばれています。「茶閑白」と称された一条恵観(えかん)好みの茶室「閼南亭(とんでい)」があります。



閼南亭から見た東庭

### 4 光明院

昭和の庭園を代表する重森三玲が作庭した枯山水庭園があります。サツキやツツジの刈り込みが美しく、三尊石組と羅漢とされる大小の多くの石を配し、「波心の庭」と称されています。



波心の庭

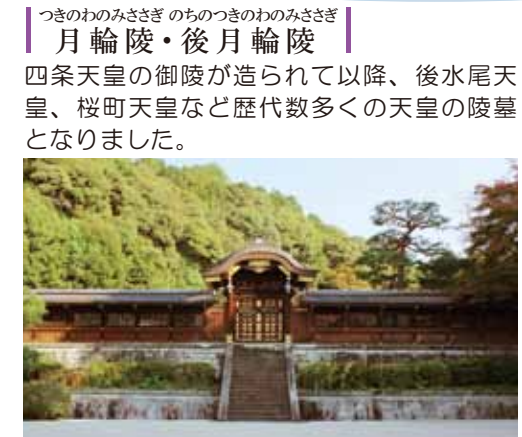


## 御寺泉涌寺

法輪寺(後に仙遊寺と改称)が、1218年に宋から戻った月輪(がちりん)大師に奇進されて、大伽藍が建てられました。寺名は寺内の泉から清水が湧き出たことにより泉涌寺と改められました。1242年の四条天皇と、その後も江戸時代に後水尾天皇から孝明天皇に至るまで、多くの天皇の御葬儀、山陵造営があり、皇室の香華院(菩提寺)となりました。



仏殿(重要文化財)



御陵拝所

## 泉涌寺の塔頭

### 1 即成院

創建当初は伏見大亀谷にあり、明治維新の廃仏毀釈後再興され泉涌寺境内の塔頭となりました。本堂には、重要文化財の本尊阿彌陀如来坐像と二十五菩薩坐像が安置され、毎年10月第3日曜日には「二十五菩薩練供養」が行われる寺としても有名です。本堂裏には大きな那須与一の墓があります。



阿彌陀如来坐像と二十五菩薩坐像



那須与一の墓

### 2 雲龍院

南北朝時代に後光厳天皇によって建立され、後円融天皇のときに写経道場となりました。両天皇を祀る靈明殿があり、重要文化財の本堂で写経体験もできます。



靈明殿と石灯籠

### 4 今熊野観音寺

西国三十三ヶ所観音霊場第十五番札所。平安時代より頭痛・病氣平癒等靈驗ある寺として信仰を集め、また、ボケ封じの観音第一霊場としても知られています。



本堂と多宝塔(医聖堂)

## 伏見稲荷大社

全国に約4万社ある稲荷神社の総本宮です。平安時代以前に秦氏が稲荷三峰に神を祀ったことに始まります。以後、五穀豊穡、家業繁栄の神として、特に現在では商売繁盛の神として信仰されています。本殿(重要文化財)前の楼門は豊臣秀吉が母の病氣平癒を祈願して奇進したと伝わります。



楼門

### ぬりこべ地蔵尊

小堂内のぬりこべ地蔵尊の名の由来は、土を塗り込めた壁のお堂に安置されていたとか、「塗り込め」の言葉が「病氣を封じ込める」に転じ、特に歯痛を「塗り込め」るご利益への信仰で、自然とそう呼ばれるようになったと言われます。



ぬりこべ地蔵尊のお堂

### 石峰寺

黄檗宗の寺院。江戸時代の画家・伊藤若冲(じゃくちゅう)が草庵を結び、住持の僧靈山と本堂背後に点在する五百羅漢の石仏群を彫りました。没後、若冲は同寺に葬られ、境内には墓と筆塚があります。



羅漢参道赤門

### 稲荷山巡り

一ノ峰、二ノ峰、三ノ峰をいただく稲荷山は、平安時代以前から聖域とされてきました。現在は小祠(しょうじ)やお塚が数多く、林立する鳥居をくぐり、「お山巡り」が出来ます。石臼は磐座と見られる大岩で長者社には秦氏の長者が祀られています。



石臼と長者社



眼力社前の狐と鳥居

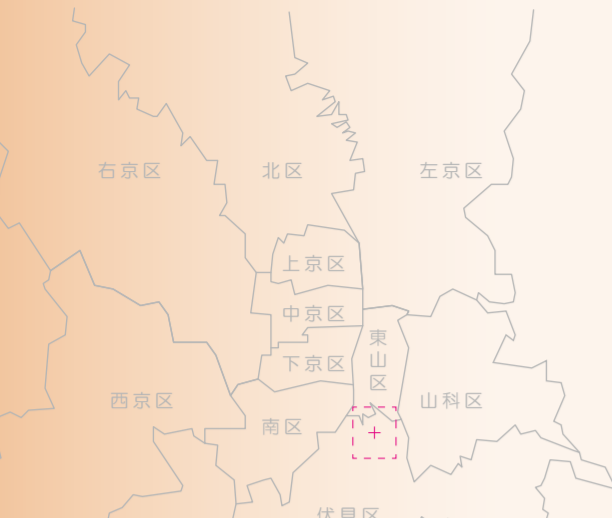
### 東丸神社

稲荷大社社官の父を持つ江戸時代の国学者、荷田春満(のだのあすまろ)の学徳を讃えて創建されました。学業・受験の神として信仰されています。



東丸神社の鳥居

# 今熊野 稲荷



## ～文化財と遺跡を歩く～ 京都歴史散策マップ



発行 京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所

### 今熊野 稲荷周辺の発掘調査

今熊野 稲荷は東山連峰西南麓にあり、京都市の東山区の南部から伏見区の北部に位置しています。北は泉涌寺道から南は伏見稲荷の南辺までの範囲です。この地区には本町通と呼ばれる伏見街道が南北に通っています。この道は桃山時代、京と伏見を直結する道として開かれたといわれています。山麓部の今熊野地区は中世に泉涌寺の所領となり、泉涌寺背後の月輪山には四条天皇以降、歴代天皇の山陵・月輪諸陵が造営されました。泉涌寺の西側には現在、東福寺の境内が広がっています。東福寺造営以前は平安時代中期に創建された法性寺(ほうしょうじ)の広大な寺域が広がっていました。法性寺跡の発掘調査では平安時代から鎌倉時代の墓跡や溝跡、弥生時代の墓や古墳時代の竪穴住居などが見つかっています。また、南接した正覚寺跡では平安時代後期から鎌倉時代の建物跡が見つかっています。稲荷地区は伏見稲荷大社の門前町として栄え、伏見街道沿いに町屋が並んでいました。稲荷大社は平安京造営以前、秦氏により建立されました。背後の稲荷山には古墳が点在し、稲荷山古墳群と総称されています。千本鳥居参道脇には古墳時代の墓が見つかった稲荷山命婦谷(みょうぶだに)遺跡、山上には稲荷山経塚があります。境内にある史跡荷田春満(かだのあずまろ)旧宅では発掘調査が行われ、江戸時代の建物跡が見つかりました。

### 12 法性寺跡

法性寺は摂政関白藤原忠平により延長三年(925)に創建されました。その後は、藤原氏の氏寺となり何代にもわたって子院の造営が行われました。寺域は鴨川の東に位置し、法住寺殿の南から現十条通り一帯を占めていました。その後、延応元年(1239)に法性寺域に九条道家により東福寺が造営され、法性寺は衰退していきました。法性寺跡では2010年の発掘調査で、平安時代の木棺墓や鎌倉時代の溝が発見されました。また、法性寺造営以前の弥生時代前期の溝、同中期から後期の方形周溝墓、古墳時代の竪穴住居なども見つかっています。2011年の本町通と十条通交差点付近の調査では古墳時代から中世の溝や柱穴などと共に、江戸時代から明治時代初期の小型の窯や作業場の一部が発見され、伏見人形の土型や原型が大量に見つかり伏見人形の工房があったことが明らかになりました。江戸時代中頃以降、本町通沿いは土産物として伏見人形を売る店や窯元が軒を連ねていたところで、当時の状況を知る貴重な発見となりました。

### 1



発掘調査の様子



溝跡(鎌倉時代)



木棺墓跡(平安時代)



竪穴住居跡(古墳時代)



方形周溝墓跡(弥生時代)



溝跡(弥生時代)



出土した弥生土器(弥生時代)

### 2



発掘調査の様子



伏見人形を焼成した窯跡(江戸時代から明治時代初期)



伏見人形の土型や原型(江戸時代から明治時代初期)

### 3 正覚寺跡

正覚寺跡は工事の際、立会調査で平安時代後期の土器や瓦が採集され、また遺物が含まれた土層も確認されました。瓦が採集されたことから寺院跡と考えられ、出土の正覚町より正覚寺跡と付けられました。1979年に伏見区深草正覚町で発掘調査が行われ、平安時代後期から鎌倉時代の建物跡や溝跡、柵跡が発見されました。建物周辺や溝跡からは平安時代の土器や瓦が多数見つかりました。



発掘調査の様子



建物跡と石列は雨落溝(平安時代後期から鎌倉時代)

### 4 史跡荷田春満旧宅

江戸時代中期の国学者、荷田春満の居宅跡で、伏見稲荷大社の楼門脇に位置しています。敷地は伏見稲荷大社の社家の屋敷地で、現存する建物は社家の屋敷構えがわかる貴重な建造物です。2007年に敷地内で発掘調査が行われ、江戸時代の建物跡と整地の跡が発見されました。柱の礎石を据えるための穴に小石を敷き詰めた根石跡が5箇所で見つかり、整地層からは江戸時代中期の土器や瓦などが出土しました。建物は天明年間(1781~1789)に描かれた指図とも一致し、江戸時代中期の荷田春満の居宅の一部が明らかになりました。



荷田春満の旧宅とみられる建物跡(江戸時代中期)



建物の根石跡(江戸時代中期)

### 5 稲荷山命婦谷遺跡

1980年に伏見稲荷境内の千本鳥居の参道脇から、円筒埴輪棺と呼ばれる古墳時代の墓が発見されました。二つの円筒形の埴輪をつなぎ合わせて墓坑に据え付け、棺として用いたと考えられています。本来、埴輪は比較的大型の古墳に立て並べられることが多いことから、近くにあった古墳から抜いて、棺に転用されたとみられています。

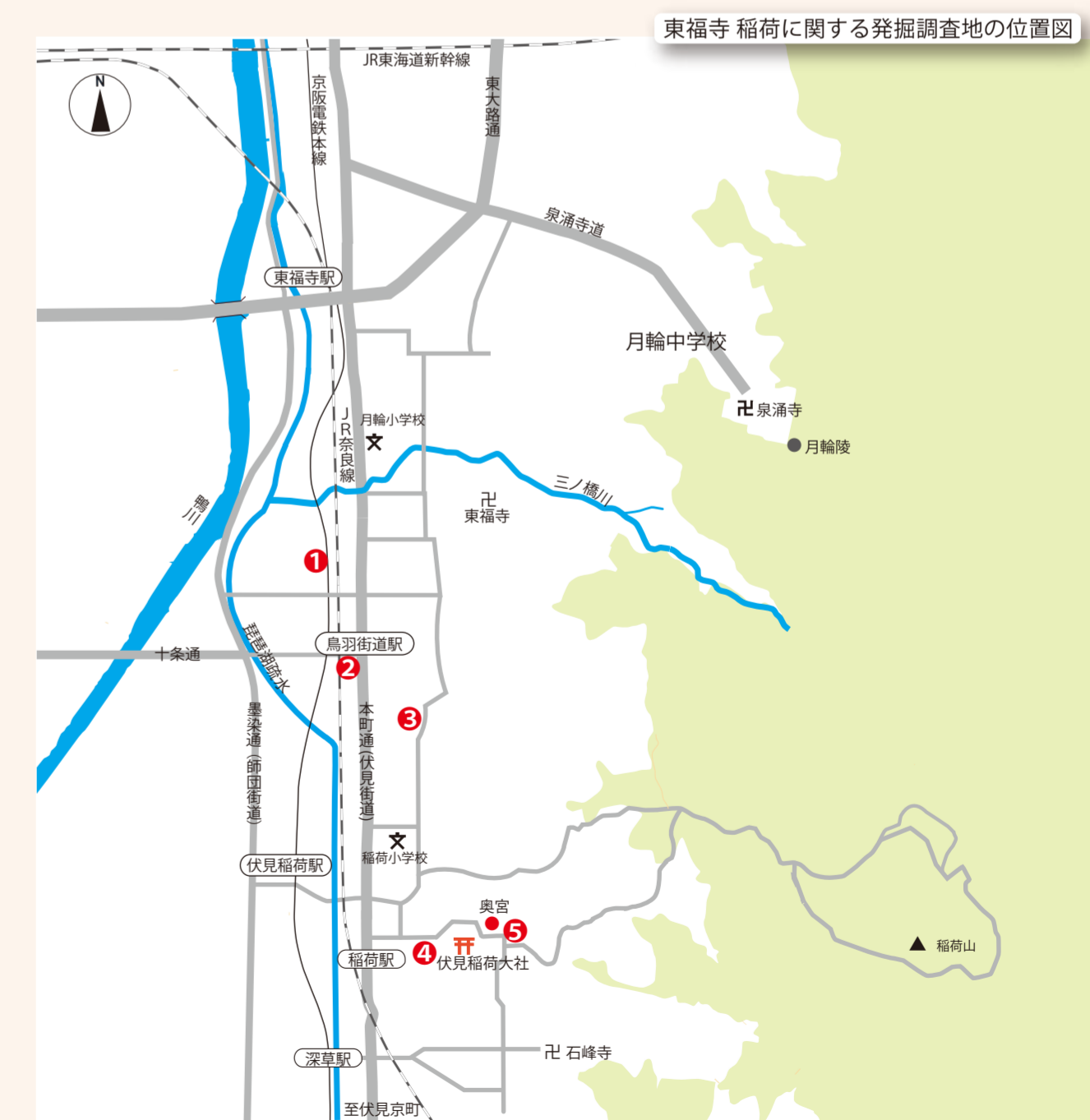


埴輪棺が出土した様子(古墳時代前期)



復元された円筒埴輪棺(古墳時代前期)

(写真掲載『平安京以前～古墳が造られた時代～』京都市文化財ブックス第26集 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課発行)



東福寺 稲荷に関する発掘調査地の位置図



### 京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435  
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1  
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307  
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/  
入館無料・月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日)  
開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)  
JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分  
市バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ

